

地質調査所研究資料集

この資料集は、地質調査所資料室（電話（0298）54-3605）で閲覧できます。

地質調査所研究資料集 No. 166

須藤定久・吉井守正（1991）

益子町北原地内に於けるボーリングのコアの評価の試み。3p., 5fig., 1tab.

内容紹介

比較的小規模の堆積成の粘土鉱床は、一般には小規模の企業によって稼行される。そのような場合の探査結果は、とくに記録も残されないことが多く、折角の情報がその場限りのものとなり、同じ程度の水準の探査を無駄に繰り返す場合も少なくない。そこでこのたび、栃木県の益子焼共同組合が行った益子焼の原土確保のためのボーリング調査の結果をモデルにして、将来の探査に役立つようなボーリングデータの記述法を試作した。

地質調査所研究資料集 No. 167

吉井守正（1991）

TG-DTA データなど ASCII テキストのコンピュータ間転送に関するプログラミング技術資料。16p., 2fig., 3tab.

内容紹介

当所の TG-DTA 装置に付属するマイクロコンピュータ HP-85 が耐用年数を超えたので、これまで約 130 本のカートリッジテープに集積した 2500 試料分の TG-DTA データを、RS-232 C 経由で NEC PC-9801 系または EPSON PC-286 系コンピュータに転送して、フロッピディスクに移し替えた。使用言語は送信側が HP-85 専用 BASIC、受信側は Quick BASIC である。このような規格の異なるコンピュータを直結してのデータ転送は、双方のハードウェアおよび言語の仕様が異なるなどのために、さまざまな困難に直面する。筆者がこの作業を通じて試行錯誤的に得たデータ転送技術について述べるとともに、他の用途への応用を考慮して、MS-DOS 上で作動するコンピュータ間の一般的なデータ転送法についても記す。上記のすべてのプログラムリストを付録に掲げてある。